

NEWS!

Vol.32-1
No.168
平成25年1月号
編集・発行
松浦機械製作所

謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年は、牽引役だった中国市場の減速に政治問題も発生し欧州金融不安も重なって需要が低迷し、また輸出企業にとっては恒常的な超円高にも悩まされ、大変厳しい1年でありました。そんな中で日本の工作機械業界は、昨年11月の速報値ベースで受注総額1兆1,000億円を超えており、2年連続1兆円を大幅に超えることになりましたが、情報端末のEMS産業からの大量受注分を除くと実際は以前の好況時の内容とはかなり異なっており、工作機械のビジネスモデルは大きく変わったと感じています。現在市場から求められているものは、高機能であっても昔の「良いけど高い」ではなく「高いけど良い」という特徴・魅力のある製品と、品質・機能が同じなら単に「安い」製品の2つになっています。

昨年マツウラは、品質・性能を維持しながら低価格を実現した新機種の立形マシニングセンタ「VX-1000 / VX-1500」とワンチャック加工による工程集約・高精度複雑加工と変種変量生産・長時間無人運転対応を得意とし、基本性能を徹底的に見直して更なる高生産性・省スペースを確保、かつコストパフォーマンスを高め、より幅広いお客様のニーズに

応えたMAM72シリーズのベストセラー機5軸制御立形マシニングセンタ「MAM72-35V」をフルモデルチェンジして市場投入しました。本年も製品開発においては、引き続き市場の要求に応えるべく強みをより強くするようマツウラの適性に合わせて力配分を振り分けていきます。

また最大の市場である北米市場でマツウラのエンジニアリングセールスの関与を強めるべく、本年4月に米国ミネソタ州セントポールにテクニカルセンタの開設を予定しています。航空機やエネルギー、自動車関連産業を中心に設備投資意欲の高い米国市場で顧客や市場の声を漏れ無く吸い上げて事業貢献に繋げて参ります。

我々マツウラは、時代に合った自分達のビジネスモデルを確固たるものに出来るよう尽力する所存です。

本年も引き続き、格別のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社 松浦機械製作所
代表取締役社長 松浦 勝俊



日本のヘソ 福井 No.167



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第167回目は「生産量日本1位南条の「花ハス」」の話です。

南条郡は福井県の中央にあり、敦賀市と越前市の間位置しています。南条郡南越前町南条地区の「花ハスの里」は、険しい山のふもとにあり、緑に囲まれたのどかな地域です。

その南条地区は日本を代表する花ハスの生産地です。昭和45年から始まった花ハス栽培は、全国生産量の約6割を占めシェア日本1位を誇っています。品種は、濃紅色の花弁が100枚以上ある多弁性の誠蓮。7月と8月の出荷には花を傷めないように一本一本丁寧に刈取り、7月は新盆用に関東方面、8月初旬から旧盆よ

うに関西方面に出荷されます。毎年7月中旬から8月中旬にかけて、南条地区の各所で花ハスの色鮮やかな花が開きます。中でもハスの里を象徴する場所が「花はす公園」です。

花ハスを最初に持ち込んだのは、同町の岩崎義雄さんです。岩崎さんは、県農業試験場職員として南条地区の特産物作りに取り組み、花ハスの生産を軌道に乗せました。当初は、食用ハス（レンコン）の栽培を試みましたが、田んぼが粘土質でレンコンを掘るのが困難と判明。そこで思いついたのが花ハスだったそうです。一人の挑戦からスタートして、現在年間12万から15万本の出荷量までになっています。83歳になった岩崎さんは、今も南条蓮生産組合長を務め、ハス田を管理しています。

「花はす公園」は、北陸自動車道の南条スマートインターチェンジから車で約6分です。是非今年の夏に南条花ハス見学を計画してはいかがでしょうか。

ユーザー No.154 を訪ねて

チタン加工20年の実績と チタン精密部品加工専門の

今回のユーザーを訪ねては、福井県のJR鯖江駅から車で北へ5分ほどの株式会社西村金属を取材しました。取材には西村憲治専務取締役に対応頂きました。同社のある鯖江市は眼鏡産業で有名な町で、日本で作られる眼鏡フレームの出荷額の約90%を生産しています。同社もこの環境下で眼鏡フレームのネジを作ることで西村忠憲社長が昭和43年に創業しました。西村専務は長男で、子供のころから将来は会社を継ぐ決意を持っていました。そこで大学では機械工学を学び、卒業後は大手企業の品質管理、また機械加工を経験して同社に入社しました。「1998年から2000年にはIT革命など大きな変革がありました。それまで眼鏡業界が生産の100%でしたが、生産が冷え込み、眼鏡に依存してはダメだと思っていました。営業が一人もいない状況で、ホームページを立ち上げようとした時に、IT関連に強い弟の西村昭宏常務が入社。2000年にホームページを立ち上げました」と西村専務。



▲工場全景

ホームページ開設で業態が大きく変化

「ホームページ立ち上げ当時は、会社紹介のみでしたが、一歩先へ出ようと考え、当社の“想い”や“技術”を表現しようと内容を変更していきました。それが話題を呼び、様々な賞を頂きました。これにより更に注目が集まりホームページが契機に大きく業態を変化させていきました」と西村専務。平成17年度NCネットワークホームページ大賞・日本ものづくり誌編集長賞受賞、平成18年度日経ものづくり大賞・日経BP特別賞受賞、都道府県等中小企業支援センター情報化優良企業表彰・優秀企業受賞、更に平成21年度元気なモノづくり中小企業300社「日本のイノベーションを支える中小企業」部門受賞しています。ホームページトップに、「NC旋盤加工からマシニングセンタ/ヘッダー/プレス加工まで、小径/微細の精密部品加工のことならチタン加工技

術の西村金属」と表記され、ホームページを通じてのビジネスが殆どになっています。

チタン加工のオンリーワンを目指す

「眼鏡のネジは真鍮から洋白へ移り、締付力が弱いのでステンレスに変わりました。そしてチタンに移行しました。チタンは、人体に対するアレルギーが少なく、そして軽い、錆びにくいなど、眼鏡に適している材質で、眼鏡の部品に多く使われるようになりました。このような環境の中から、真鍮ネジの作成から始まり、チタン製の蝶番、チタン製のメガネパーツの作成と技術を積み重ねていったのです。そのおかげで、ネジ専門から眼鏡のパーツ全部を手掛け、旋盤・フライス加工、プレス加工にも取り組み、素材から製品の一貫生産ができる技術力を持つことが出来ました。今では、すべての工程をチタンで作れる体制となっています」と西村専務。同社は、チタン加工歴20年のベテランが毎日チタンを加工しているの、十分な知識と経験、また体制が確立しています。しかしチタンは熱伝導率が小さく、工具の磨耗などの問題が発生しやすく、切りくずが燃えるなどの危険性もあります。また切削油がチタン切削加工では重要ポイントになります。同社オリジナルで特殊配合されたものを開発して使用しており、この油でないとチタンは切削できないとのことでした。

1個からの試作・開発から数万個の量産加工まで対応

同社は、眼鏡部品から半導体製造装置、医療機器部品、電極、航空機部品まで幅広い分野に取り組んでいます。また、150台を超える多彩な加工設備と加工技術で最適な製造方法を提案出来ます。これらの実績で1個の試作・開発から量産加工まで対応しますとホームペー



▲MAM72-35Vの前で右が西村憲治専務

150台の多彩な加工設備で 株式会社西村金属

ジでアピールし営業活動を実施しているので、新規開発の相談件数は月に100件以上あります。「新規案件は、3日以内に答えを返すことを目標にしており、毎日新しい図面や試作に取り組んで日々葛藤しています。試作部門は当社にはなく、全従業員が生産をしながら加工技術の開発に取り組んでいます。そのことで社員は日々勉強し、技術向上に取り組まざる得ない状況です。仕事が人を育成していると言えます」と西村専務。

オリジナル商品の開発に挑戦

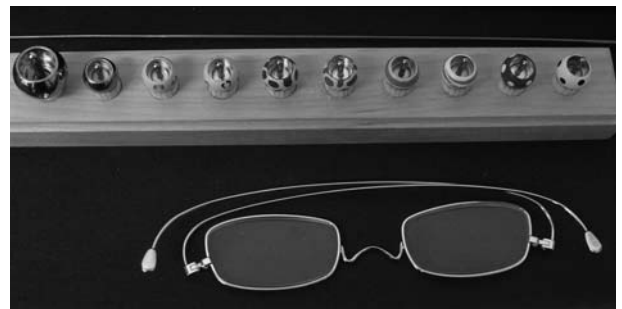
同社では委託加工の他に自社ブランドの製品を開発・販売しています。一つは「ペーパーグラス」という厚さ2mmの老眼鏡です。「ネジ、蝶番、フレームなど眼鏡の全てを作る技術があります。モノづくりメーカーとして一つだけこだわりの眼鏡を作ろうと思い、この老眼鏡を作りました。折りたたむと2mmの薄さになることがポイントです」と西村専務。もう一つは「逆さゴマ：SAKASA-KOMA 100% Titanium」です。「逆さゴマ」は、回すと逆さまに立つコマで、昔ながらの日本の玩具でプラスチックや木で出来た物があります。同社は全てチタン製で逆さゴマを作成しました。両アイテムともネットや百貨店で販売されています。「これらの商品は当社の売り上げには貢献していません。商品開発・技術開発することで、委託加工からの脱却、また受け身の心からの脱却を目的にしています。当社は100%お客様の希望されたものを多品種少量ロットで提供しています。しかし、モノづくりに探求心が無くなると会社の成長が止まります。商品開発・技術開発を行うことで、社員の技術また意識向上が図れば良いと考えて取り組んでいます」と西村専務。

5軸制御立形マシニングセンタ「MAM72-3VS」導入

平成24年9月にマツウラの5軸制御立形マシニングセンタ「**MAM72-3VS**」（パレット40枚装備）が導入されました。「お客様からコスト、納期の厳しい要求があります。お客様の図面から判断して、複数の工程に分けた機械加工での見積もりを提出、しかし価格が合わず受注出来なかったこともありました。それでワンチャックで全加工出来る5軸加工機が欲しいと思っていました。また色んな加工をするためにジグが沢山必要で、通常の機械ではジグ交換で機械が止まってしまう。同時5軸加工で多面パレットの**MAM72-3VS**を見た瞬間、加工イメージが次から次と湧き、また多面パレットにより色々

株式会社西村金属 概要

本 社 〒916-0019
福井県鯖江市丸山町3-5-18
TEL 0778-51-2348
FAX 0778-52-6946
URL <http://www.nsmr.jp>
代表者取締役 西村忠憲
設 立 昭和43年4月
従 業 員 30名
事 業 内 容 チタン精密部品加工



▲「ペーパーグラス」と「逆さゴマ」

な発想が湧いてきました。未来のために必要になる機械であると考え設備しました」と西村専務。

未来に向かって

同社はチタン加工専門として企業だけでなく、大学の研究機関からの仕事も多数あります。特にチタン材で実験装置を作る医療関係の研究をしている最先端分野からの依頼です。「当社は、大学からの依頼を大事にしています。始めは担当の教授と打ち合わせを行いますが、実務では研究室の学生との話になります。その時出来るだけ親身になって協力するようにしています。優秀な彼らからは将来企業または研究機関に入り研究の中核を担う可能性があります。彼らに、私たちのモノづくりへの熱い想いを伝えていくことが、これからのモノづくり日本を支え、さらに発展していくものだと思っています」と将来に向けて種まきを意識している西村専務の言葉です。

インタビューの最後に西村専務は「**MAM72-3VS**は、夢を持った機械、可能性が無限にある機械です。この機械で、ガンダムをプラモデルのパーツから作りたいと考え、社員に仕掛けています。完成したガンダムを作ることは、CAD/CAMを駆使すれば難しくない。しかし、板から作ったら面白い。チタン製のガンダム、楽しみを仕事に持ち込みたい」と夢を語って頂きました。

JIMTOF2012

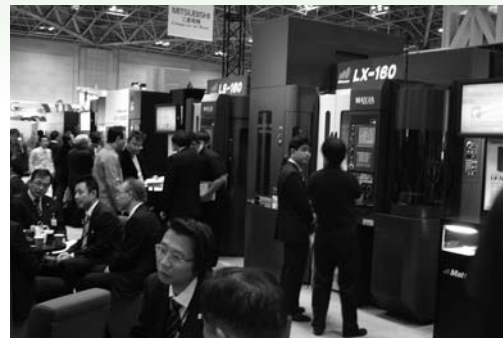
第26回日本国際工作機械見本市 統一テーマ“匠の技術と先端技術の融合”

我が国工作機械業界の最大のイベントである「第26回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2012）」が平成24年11月1日から6日までの6日間、東京ビックサイトで開催されました。23の国そして地域から815社・団体（うち海外から237社・団体）が出展。期間中の来場者は、155,416人（海外14,423人）となり、前回（2010年）に比べると約2万人の増加でした。海外からの来場者は前回より9.7%増の14,410人でした。内訳を見ると韓国と台湾からの来場者は増えましたが、中国からの来場者は75%減少し、景気減速に加え、日中関係悪化の影響がありました。天候にも恵まれ期間中に雨天は2日のみでした。特に11月3日（土）には46,000人が来場され、通路に人が溢れるほど盛況な一日でした。

海外出展では韓国・台湾企業が多数ブースを構え、機械本体から様々な要素部品（ボールネジ、リニアガイド、リニアモーターなど）、工具、放電加工機、マシニングセンタを展示し、価格だけでなく技術力で日本に迫る勢いがありました。また、二つの企画展示が注目を集めていた。まず、東京都大田区の中小企業・地方自治体・学校の連合チーム「下町ポプスレーネットワークプロジェクト」推進委員会メンバーによるもの。もう一つは、長年にわたりオリンピック日本代表が使用する砲丸を製作してきた辻谷工業の辻谷政久社長でした。



▲マツウラブース入り口



▲お客様で賑わうマツウラブース

ユーザー様とのコラボ展示

マツウラブース内に5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**または**MAM72**のユーザー様10社から提供頂いたサンプル展示を行いました。各サンプルの上にはお客様の紹介とユーザーボイスが記載され、5軸加工の実用性をアピール。



▲ユーザー様とのコラボ展示

「出展ユーザー様」

- ・ 青山眼鏡株式会社
- ・ 株式会社曙製作所
- ・ 池田工業株式会社
- ・ 有限会社稲垣工業所
- ・ 株式会社カマタ製作所
- ・ 山陽精工株式会社
- ・ 三和ロボティックス株式会社
- ・ 株式会社シオダ
- ・ HILLTOP山本精工株式会社
- ・ 株式会社ユー・エム・アイ

ユーザーボイス

- ・ 5軸機導入でワーク段取り回数激減、専用ジグ不要となりトータルコスト大幅削減
- ・ マルチツール&マルチパレット仕様で変種変量生産・日替わりメニュー生産に最適
- ・ **MX-520**と**GibbsCAM**との連携によりスムーズな立ち上げ
- ・ 高速同時5軸加工～高剛性加工まで用途が広い
- ・ 接近性がよく、安心して作業が出来る
- ・ 機械納入後のアフターフォローがきめ細かい
- ・ 稼動域が広く、干渉領域が少ないため、同時5軸加工が容易



新技術の展示

新技術展示では、マツウラが取組む新技術をパネルまたは実物で展示しました。リニアモーター駆動**LS-160**による高速インペラ加工、難削材のチタン加工、5軸制御複合加工機**CUBLEX**の研削加工の実力、5軸計測補正システムのパネルと実物展示。また新操作システムとしてタッチ式15インチタッチパネルが展示され、実際に画面に触れ操作性を実感されていました。

マツウラが提案した最新技術

5軸制御立形マシニングセンタ「**MAM72-35V**」 NEW

- ・5軸長時間無人運転コンセプトで作られたベストセラー機のフルモデルチェンジで更に操作性を向上
- ・傾斜&回転軸を全面改良し、DDモーター採用で高速、高精度を実現
- ・ワークの接近性を更に良くし作業性が向上

立形マシニングセンタ「**VX-1000**」 NEW

- ・市場価格にマッチした立形3軸機
- ・多彩な機能を標準仕様で、更に高精度、高剛性を実現

ハイスピードリニアモーターマシン「**LS-160**」 NEW

- ・同時5軸加工で圧倒的加工スピードを実現
- ・SIEMENS NCを搭載した高速部品加工専用機

ハイグレードリニアモーターマシン「**LX-160**」 NEW OP

- ・高速・高精度リニアモーター駆動汎用機
- ・マルチツール(338本)とマルチパレット(91面)により長時間無人運転を実現

5軸制御立形マシニングセンタ「**MX-520**」 Update

- ・多くの納入実績がある5軸入門機
- ・工具本数の増加、X/Y/Z軸の送り速度をアップした仕様
- ・マツウラ独自開発の衝突防止機能や、操作支援システム**MIMS**の実体験が出来る展示を行い、来場の方々のご自身でその有効性を実感

金属光造形複合加工機「**LUMEX Avance-25**」

- ・光造形と切削加工によるオンリーワン技術での次世代モノづくり
- ・3D水管やポラス造形など新技術の実演



▲抜群な操作性の**MAM72-35V**



▲超高速加工をアピールした**LS-160**



▲注目を集める**LUMEX Avance-25**



▲操作性向上の**MX-520**



▲機械高剛性をアピールした**VX-1000**

松浦会長が平成24年の叙勲で旭日小綬章を受章

松浦会長は、平成13年から平成23年の10年間福井県機械工業協同組合の理事長として、業界の発展、また人材育成に尽くされたことの功績顕著であると認められ昨年11月「旭日小綬章」を受章しました。また松浦会長は、平成15年に黄綬褒章も受章しています。

叙勲とは、国家や公共に功勞のある人物や文化発展に功績ある人物に対して、国から勲章を与えることで、勲章の種類は大勲位菊花章、桐花大綬章、旭日章、瑞宝章、文化勲章、宝冠章の6種類があります。今回松浦会長は、経済産業省中小企業庁の推薦により、中小企業振興の功績に顕著な功績を挙げたとして旭日小綬章の栄誉となりました。

綬章伝達式は、11月15日(木)に東京品川プリンスホテルで開催され、松浦会長はご夫婦で出席。式典は経済産業省関連の157名が出席し、厳かな中で行なわれました。伝達式終了後、専用のバスで皇居に向かわれ、天皇陛下への拝謁が行なわれました。旭日章の図柄は、日章を中心に光線(旭光)を配し、鈕(章と綬の間にあるもの)には桐の花葉を用いています。「この度は図らずも福井県機械工業協同組合の皆様方を代表して叙勲の栄えに浴したことに大変感激しております。私一人はまことに微力ですが、これまでめぐり合い、ご指導を賜りお世話になった全ての方々や、いつも苦勞をかけてきた家族、そして苦しいときも頑張ってくれた従業員の支えがあつての受章であり、皆様方に心より感謝申し上げます」と松浦会長は語っています。



▲伝達式終了後の松浦会長ご夫婦



▲賞状



▲旭日小綬章

見聞録



会長 松浦 正則
「感謝」

この度は、はからずも叙勲の栄を賜り、身に余る光榮であり、改めて皆様にお礼を申し上げます。思い起こせば、昭和10年(1935年)に父・松浦敏男が創業して以来77年が経過しました。人間で言えば喜寿を迎えています。父の後ろ姿を見ながら全力で駆け抜けてきました。これもひとえに御支援を頂

いた内外の皆様、社員、またその御家族のお陰です。感謝の言葉で言い尽くせません。本当に有難うございます。父は「鍛冶屋は、大きくすると経営に行き詰る」とよく言っており、常にこの言葉を戒めにしてきました。マツウラは10年間に一度くらいのチャンスを何とか掴んで業績を上げて、次のステップに手を打ってきました。そして、マツウラのブランドを世界中に広めることが出来ました。その中で多くの人との出会いがあり、特に名古屋の山下商店(現：山下機械)の大矢専務の「フライス盤で小さい機械なら売れる」との言葉は、マツウラが小型フライス盤製作に取り掛かる大きな後押しになり、その後のマシニングセンタ開発に繋がる原点となりました。

もう一人は、ソニーの大賀典雄

氏との出会いです。「日本だけでなく、アメリカで売れるものを作りなさい。アメリカで売れば、世界で売れる。ソニーはそれを実現してきたから」との激励を思い出します。マツウラは、中小企業ではありますが、その言葉を胸に世界中にマシニングセンタを販売してきました。

過去を振り返ると、明日の米をどうしようかと追い詰められたこともありました。しかし、市場が求めるものを見据え常に新しい製品を開発してきたことが良かったと思います。これからもマツウラは、お客様に必要とされる新製品の開発を続けてまいります。今後一層のバックアップを賜れば大変有り難く思います。

フルモデルチェンジ紹介

5軸制御立形マシニングセンタ「MAM72-35V」

5軸制御立形マシニングセンタMAM72シリーズ(1991年以来、納入実績1,000台以上)は、ワンチャッキング5軸加工による工程集約・高精度複雑加工を実現しつつ、「多品種少量生産」・「長時間無人運転」に対応した5軸機としてあらゆる産業(航空機・自動車・工具産業・医療機器分野等)で実績を築いてまいりました。今回開発した新型MAM72-35Vは、基本機能を徹底的に見直し、従来機に比べ高生産性・省スペースを確保し、より幅広いお客様のニーズに応えることが可能となりました。

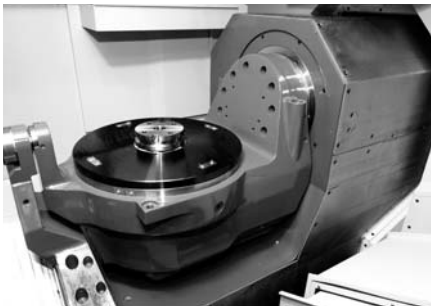
最大の特徴は、ダイレクトドライブモータ駆動の採用で、B/C軸テーブルの高速・高精度・長寿命化を実現したことです。更に作業位置からパレット中心まで450mm、主軸中心まで280mmと接近性を改善し、段取りの作業性を十分に確保しています。またマツウラ独自の様々なシステムを搭載して、複雑な5軸操作を安心して行なえるようになりました。



▲MAM72-35V

主な仕様

項目	mm	New MAM72-35V
移動量(X/Y/Z軸)	mm	550/440/580
移動量(4/5軸)	deg	-125 ~ +65/360
早送り速度(X/Y/Z軸)	m/min	60/60/60
早送り速度(4/5軸)	min ⁻¹	50/100
主軸回転速度	min ⁻¹	12,000
最大ワークサイズ	mm	D350 x H300
工作物許容質量	kg	60
工具本数	本	60 (最大520)
パレット枚数	枚	2/32/40



▲ダイレクトドライブモータ駆動のB/C軸テーブル

シングルorダブル 巳年にあたって



社長 松浦 勝俊

今年は巳年。「ヘビ」というとどうもその容姿からあまり女性には受けが良くないというのが一般的かと思えます。実際に毒を持つ種類もありますし怖いイメージもありますね。

ただ、世界中でヘビに対する扱いは様々で、エジプトでは神々を描くヒエログリフにヘビが多く用いられますし、ギリシャ神話の医学神アスクレピオスの杖にもヘビが巻き付いており生命力の象徴ともされWHO(世界保健機構)のシンボルマークにも使われています。賢さや富の象徴だったりもしますが、旧約聖書ではアダムとイブにりんごを食べさせて天国から追放されるきっかけを作ったのはヘビとされ、ユダヤ、キリスト教では悪魔の化身ともされているようです。

また十二支の中で哺乳類以外の干支は、辰(？)、酉(鳥類)と巳(爬虫類)で、そもそも人間とは体の構

造が全く違いますし、子育てもしないことから、何を考えているかわかり難い、転じて得体が知れない、神秘的というイメージも持たれます。何とも多種多様な顔を持つものです。

さて、ここまで巳=ヘビで話を進めてきましたが、実は巳年の原字は頭と体が出来かけた胎児を描いたものだそうです。また、漢書「律歴史」では止むの意味の巳とし、草木の成長が極限に達して次の生命が作られはじめる時期と解釈しているとか。ではなぜこの巳をヘビとしたのかは、十二支を世間に浸透させるために動物の名前を当てただけという説もあるそうです。

何とも混乱してきますが、互いに共通しているのは、新しいものを生み出す象徴的な意味を持っているということです。混沌とした時代に新しいものを創造するにはぴったりの干支かも知れません。ヘビの皮を財布に入れるとお金が貯まるとも言いますし、マシニングセンタには蛇腹もいっぱい付いてますから、是非とも2013年は商売繁盛といきたいものです。

お知らせ

1 平成25年度 松浦機械製作所暦

1	2	3	4
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2 平成25年度 マツウラスクール開催日程

開催予定月	日程	スクール内容
1月度	16日(水)~18日(金)	5軸加工コース
2月度	7日(木)~ 8日(金)	840DIコース
3月度	5日(火)~ 8日(金)	基礎コース
4月度	9日(火)~12日(金)	マクロコース
5月度	8日(水)~10日(金)	5軸加工コース
6月度	4日(火)~ 7日(金)	基礎コース
7月度	10日(水)~12日(金)	高速・高精度コース
8月度	6日(火)~ 9日(金)	マクロコース
9月度	11日(水)~13日(金)	5軸加工コース
10月度	8日(火)~11日(金)	基礎コース
11月度	6日(水)~ 8日(金)	高速・高精度コース
12月度	10日(火)~13日(金)	マクロコース

※お申し込みは、各営業所へお願いします。
 ※予告なく開催日や内容の変更もありますので、お申し込みの際にはご確認ください。



「IWACHU (イワチュー)」

欧米のお茶愛好家の間で「IWACHU(イワチュー)」が流行しています。このイワチューは岩鑄という会社で、作っている岩手県名産の工芸品「南部鉄器」のことを意味しています。アルミやステンレスに押されている鉄器ですが、海外では鑄物の質感を愛好するファンが増えているのです。

この「IWACHU」を作っている株式会社岩鑄は、岩手県盛岡市にある創業1902年の100年以上続く老舗南部鉄器メーカーです。南部鉄器の技術は、江戸期に完成され、以後脈々と受け継がれてきた伝統工芸です。しかし、近年、軽くて錆びない素材としてアルミやステンレスが登場してきたことで、南部鉄器の需要が年々落込んでいます。岩鑄社は、鉄器の持つ質感と頑丈さを守りつつ、時代の変化に応じた“作るモノ”に変えていこうと経営方針を転換。そんな発想から生まれたのが、海外市場向けに製造されたカラフルな鉄器の急須です。南部鉄器は黒いものとの先入感を裏切るかのような、赤、青、緑と鮮やかに彩色され、形状も急須とは思えない奇抜なものが多く生産されています。きっかけは、フランスの茶葉専門店から「鉄の質感は素晴らしいが、色が黒ばかりでつまらない。青や赤を作りたい」との依頼によるものです。試行錯誤の末、鉄器の表面に様々な色を着色する技法を完成させて納品したところ、このカラフルな鉄器が海外で飛ぶように売れました。2004年末から、近代美術や工業デザインに特化したコレクションを擁する米国・ニューヨーク近代美術間の喫茶スペースで、岩鑄社製の急須「曳船」が採用され、工業デザイン最高峰にも認められています。南部鉄器という日本文化に根付いたモノづくりが世界から求められるという、勇気が湧いてくる話題です。

管理本部ゼネラルマネージャー 上村 誠



本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から平成24年11月度の受注状況が発表され、11月度の工作機械受注額は881.7億円で、前月比20.9%減と平成24年度の最低受注額を2ヶ月連続で更新しました。内需は298.6億円で前月比8.5%増と2ヵ月ぶりに増加。しかし、外需は583.1億円で前月比12.7%減となり、2010年10月以来25ヶ月ぶ

りに600億円を下回りました。1~11月期の工作機械受注総額は累計1兆1,283億円となり、前年同期比6.8%減となり、内外需とも前年比減少となりました。しかし、年間受注目標額の1兆2,000億円の水準は達成可能となりました。

* 取材した株式会社西村金属はチタンという素材に特化して事業内容を眼鏡から様々な分野へと展開しています。またコーヒーブレイクで取り上げた株式会社岩鑄は、鉄に拘った

南部鉄器を色や形を変えグローバルに展開しています。両社ともチタン、または鉄器という根本は変えず、時代の要求に応じて様々な変化をさせたことが良い結果を生んでいます。モノづくりには行き詰まりがなく、新しい展開が起こりうるとの事例だと思えます。今年もこのような話題を提供し、元気なモノづくりを紹介してまいります。